



36

## 伝統行事を学び、笑顔と活 気あふれる学校

東浜小学校

三陸海岸の最南端、牡鹿半島のほぼ中間に位置する東浜小学校は、牧浜、竹浜、狐崎浜、鹿立、福貴浦の5地区の集落を学区に持つ、リアス式海岸の自然美に恵まれた学校です。明治6(1873)年に創立された竹浜小学校が前身で、昭和30年、現在地に校舎を構えました。

5月1日現在の児童数は32人で、3年以上は複式学級です。校舎内には、現在地に校舎を構えてからの、思い出のアルバムが飾られてあり、当時の様子などを振り返ることが出来ます。

東浜小学校が目指す学校像は、「花と緑があり、笑顔と活気にあふれる学校」です。特色あるさまざまな活動の様子を一部紹介しましょう。



ハッピーランチ

学校の門をくぐると、周辺の自然と調和がとれたきれいな花が迎えてくれます。廃タイヤを植木鉢に見立てた「タイヤ花壇」で、子ども達一人ひとりが自分専用の花壇を持ち管理しています。

また、毎週水曜日に実施する「ハッピーランチ(全校給食)」や「荻浜小・中学校との交流活動など」を通じて、異年齢・他地域の子とも達と接する機会を増やし、人との関わりや思いやりを大切にすることを学びます。

そして、特に力を入れて取り組んでいるのが、獅子風流の伝承活動です。平成元年から始まったこの活動は、年2回、牧浜獅子風流保存会の皆さんの指導を受け、運動会や学区内の各地区を回り地域の方々に披露します。一時途絶えていた伝統行事も、この活動により、古人から受け継がれてきた心をしっかりと後世に伝えることができ、学校を含め地域全体が笑顔と活気にあふれています。

今年初めての獅子風流講習会では、完璧な演舞を披露し、保存会の皆さんも感心していました。学校が取り組んでいるこの活動が子ども達に浸透している限り、地域の活気が途絶えることはないでしょう。



獅子風流演技指導

## 今月の表紙から

今回は、父親から受け継いだ技術で、80歳を過ぎて、なお現役で鯨歯工芸品を作り続けている千々松さん取材しました。

鯨歯工芸は、もとは佐賀県でマッコウ鯨のあご骨を用いた三味線のバチの加工をしていた職人が、牡鹿に移り住んで広まったといわれています。

千々松さんでは、お父さんが昭和3年ごろから、鯨歯職人として働き、パイプや箸などの実用品を作っていました。その後、昭和46(1971)年に牡鹿コバルトラインの開通がきっかけで、観光客用としてブローチやアクセサリーなどの装飾品を作るようになりました。

現在は、千々松さんの息子さんも後を継ぎ、息子さんは、仙台や大阪などのデパートでの物産展に出向いて、鯨歯工芸品の良さを広めています。しかし、いまは、マッコウ鯨の歯は手に入らないので、昔購入した原材料を使っていて、在庫がなくなれば鯨歯工芸の火は消

えてしまつ状況です。

千々松さんは鯨の歯というのは、使つものによつて、愛着心が出てきます。例えば装飾品は、触つて使うたびに、マッコウ色になっていくので、使つたお客さんは何となく愛着心を持つようです。これからも、息子とともに、お客さんに喜ばれるものを作っていきたいですね。でも、在庫が少なくなつているので、早く昔のように捕鯨が再開してほしいと強く願っています。

お客さんからのお礼の手紙やまた来たよの声がともうれしいので、まだまだ現役でがんばっていききたいですね」と話していました。



ちまっ 松 行隆さん  
(牡鹿鮎川浜地区)

いさな  
「勇魚」とも呼ばれる鯨は、「大きくて、勇ましく、大変長命なめたい動物」とされていて、鯨の歯でできたものを身に付けていると幸運がもたらすといわれています。

# サークル仲間

なかま ④

## レッツ！社交ダンス！

### 河北ダンススポーツクラブ

河北ダンススポーツクラブ（松原正幸会長）は、河北ダンス愛好会として昭和55年に設立され、その後、河北ダンススポーツクラブと改名し、もうすぐ30周年を迎えます。

会員は男性10人、女性7人の計17人で、毎週火曜日午後7時から1時間45分練習を行っています。練習内容は、月に一度、登米市南方地区のプロの先生を招いて指導を受け、それ以外の練習日は、松原会長を中心にルンバ・チャチャチャ・サンバ・ジャイブ・ワルツ・タンゴ・スロー・クイックなどの練習を行っています。会員は、6月13日（土）に河北総合センター（ビッグバン）で総勢100人以上が参加するダンスパーティーに向けて現在、練習を行っています。

また、7月12日（日）には、関東・東北の各地から出場者が駆けつける第11回宮城県アマチュアダンススポーツ石巻大会も昨年と同様に河北総合センター（ビッグバン）で行われるなど、河北地区のダンス熱は、徐々に高まっています。

松原会長は、「会員の皆さんが楽しく上手にダンスできるようにがんばって指導していきたい」と話していました。



## 長寿のひけつ



③

### よく食べ・よく働き・よく休む

阿部きよすさん（狂鹿地区清水田浜）

100歳

清水田浜にお住まいの阿部きよすさんは、明治42（1909）年に小積浜（旧

荻浜村）で生まれ、23歳で、現在の清水田浜（旧大原村）に嫁ぎました。

2男2女の子宝に恵まれましたが、戦前から巡航船の機関士として働いていた旦那さんが戦死され、その後は、朝から晩まで親せきの田畑の耕作などの手伝いをして懸命に働き、母の手一つで4人の子どもを育てあげました。現在では、孫8人・ひ孫9人・玄孫3人の顔を見ることができてついでです。

これまで大きな病気をしたことがなく、ここ3年ぐらいは入院もなく、昨年まで、庭の草むしりなどをしていました。最近では、ひざの関

節症を患い、外出することが少なくなってしまうましたが、家の中では介助がなくても、自分で何でも出来るそうです。

食事のときに梅干し一個を必ず食べ、熱めのお風呂に入り、湯上りに牛乳を飲むことが、体に良いことなのかもしれないと話していました。

阿部さんに長寿のひけつは？と尋ねると「好き嫌いのない食事と一生懸命働き、きっちり休むこと」と教えてくれました。



### 表紙のシリーズが “いしびよん” になりました。

●これまでの“食”を含め、特殊な技能を持っている方、伝統工芸品などを作っている方や〇〇名人などを紹介します。また、「みんなの広場」は、市民の皆さんが参加して、みんなで作るコーナーです。

毎月、次のような方々を紹介しています。自薦、他薦を問いませんので、情報をお寄せください。

- 全国大会などで実績のある元気で明るい若者
- 音楽、スポーツ、ボランティアなど活発なサークル活動をしている団体
- 元気な高齢者
- 仲の良い3人以上の兄弟姉妹

☎ 広報広聴課（内線211）